上町台地界隈の情報紙
うえまち
揮毫 一心寺 長老 高口基行 師
2022年5·6月号
号外 2022 6
発行：NPO法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

二〇二二年 聖徳太子一四〇〇年御聖忌記念
四天王寺 新縁起

第36回 世界一の大梵鐘

四天王寺 勧学部
文化財係主任・学芸員
一本崇之

四天王寺の境内北側には、英霊堂というひときわ大きな建物があります。ここには、かつて「聖徳皇太子頌徳鐘（しょうとくしょう）」と呼ばれる世界最大の梵鐘が吊るされていました。

この頌徳鐘の鋳造は、明治36（1903）年に天王寺公園で開催された第5回内国勧業博覧会に間に合わせる形で、聖徳太子一三〇〇年御忌の記念事業として企画されました。計画の目的は神仏分離などにより疲弊した当時の仏教界を盛り上げることにあり、最先端の科学技術と伝統的な宗教を融合して「世界一の大梵鐘」という形に結実させるという壮大なものでした。計画された梵鐘は高さ7・8m、口径4・8m、重量157・5tで、大鐘として知られる京都・知恩院の2倍近い規模になりますから、いかに巨大であったかがわかります。

四天王寺住職であった吉田源應（げんのう）が中心となり、明治33年より、鋳造のための勧進活動が開始されました。このとき、梵鐘鋳造の発願を記念して門前で売り出されたのが、今でも石鳥居の傍に店を構える釣鐘屋の「釣鐘まんじゅう」です。あべのハルカスも通天閣もない時代、わが町に〝世界一〟の梵鐘を作るという大事業は、門前町の人々の情熱を大いにかき立てたことでしょう。

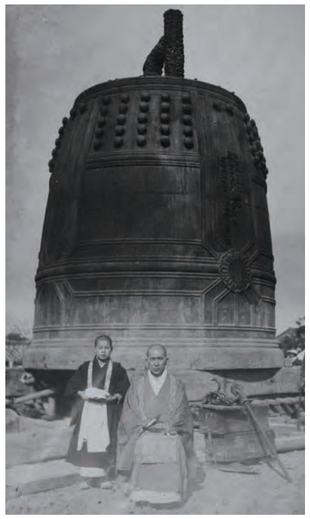
地道な勧進活動の結果、9万人に及ぶ人々の協力を得て、膨大な地金と寄付金12万円が集まったといいます。しかしながら、梵鐘鋳造費21万円、鐘堂建築費10万円の合計31万円という当初の目標額には遠く及びませんでした。

とはいえ、計画をやめるわけにはいきませんので、明治35年より大梵鐘鋳造の準備に入ります。鋳造を担ったのは、大阪鋳物工業組合員の今村久兵衛、中井久太郎、市橋寅吉、浅田松五郎ら4名の鋳物師たちでした。鋳造には、鐘楼計画地の真下に、深さおよび直径それぞれ7・5mの大穴を掘り、そこに鋳型を降ろす方法がとられました。

明治36年1月24日正午、鋳型の中に熱銅が一斉に流し込まれました。無事流入が完了すると、その場にいた一同によって万歳三唱の掛け声が上がり、職工その他関係者百数十名が、樽酒の鏡を抜いて、太子殿を参拝、関係者の家々へお祝いに回ったといいます。

梵鐘鋳造の完了に続いて、鐘楼建設の準備が進められました。明治40年10月13日には、画家湯川松堂（しょうどう）による巨大な「雲龍図」の天井画も完成し、同年末には竣工を迎えます。そして、梵鐘鋳造から遅れること5年、明治41（1908）年5月22日、四天王寺鐘楼落成頌徳鐘撞始法要が厳修されたのでした。

しかし資金不足により地金の銅が足らず、披露されたその音は、残念ながら皆の期待に沿うような音色ではなかったようです（「ダアーン」という大砲の音のようだったといいます）。その後、昭和18（1943）年に軍に供出されるまで、40年にわたり「鳴らずの鐘」として頌徳鐘は沈黙を続けるのでした。



頌徳鐘と吉田源應（明治36年）

上町台地界隈の情報紙
うえまち
揮毫 一心寺 長老 高口基行 師
2022年5·6月号
号外 2022 5
発行：NPO法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

二〇二二年 聖徳太子一四〇〇年御聖忌記念
四天王寺 新縁起

第35回 明意上人のこと

四天王寺 勧学部
文化財係主任・学芸員
一本崇之

文久3（1863）年、灯明の火の不始末によって四天王寺の聖霊院が焼失します。享和元（1801）年の雷火以来の大きな被害でした。資金不足などで再建が難航する中、この一大事業を託されたのが、八尾の融通念仏行者・明意（みょうい）上人でした。

明意上人は、文化11（1814）年、備後国（現広島県）福山藩主阿部正精（まさきよ）の家臣青木伝右衛門の長男として生を受けます。幼少より仏教への信仰心篤く、出家を望むも両親の許可が得られず家督を継いでいましたが、その志は断ちがたく、天保12（1841）年、28歳にして河内国八尾にある清慶寺の樂山（ぎょうざん）上人のもとで剃髪し、融通念仏宗の僧侶となります。樂山上人が早世ののちは、一心に念仏修行をすることを決意し、各地で厳しい修行に励みました。その高徳は市中に知られるところとなり、関白近衛忠熙（ただひろ）や華頂宮博経親王も篤く帰依したといいます。

聖霊院再建をなんとか成就するため、四天王寺一舎利の性順らは一山で決議し、四天王寺ともゆかりの深い融通念仏宗の高僧明意上人に再建への協力を要請します。上人は「もとより寺院の経営や勧財の方法などは一向に存ぜぬ愚僧のことゆえ、御取り持ちの功は無かろうと思えど、ただ御念仏の御寄進だけでよろしくば、ほかならぬ御太子様への御供養、謹んで御助勢申しましょう」と要請を承諾し、明治5（1872）年2月に聖霊院北東（現弁天池付近）に小さな庵を構え、四天王寺に入られたのでした。

上人が四天王寺の庵にて日々念仏三昧の修行に励まれると、その噂はすぐに広まり、上人を慕って多くの人々が四天王寺に参詣に訪れ、再建の寄進も集まるようになりました。これにより明治6（1873）年3月に再建地の千本地築き（地固め）、9月には上棟式が行われるなど、事業は大きく進展します。

着々と再建工事が続くその年11月、上人は「少し疲れたので」と庵の扉を閉じて面会を遮断し、細々と念仏を続けるようになります。ある日、ふいに庵扉を開いてゆかりある人々を招き入れ、「この度の御改造事業も果たし申さず、この世の暇乞い致すは本意ならねど、娑婆の命数尽きれば、明日は永のお別れを致すべし。されど吾が門徒たる講中はじめ志ある方々は、何卒御再建の成就に尽くされたし、これ拙僧の今端の頼みなり」と、辞世の句とともに別れを告げ、同月12日午前10時、座禅して念仏姿のまま静かに息を引き取りました。このとき60歳。ただ一心に念仏修行にささげた生涯でした。

ありがたや　今は別れに太子殿
のこしおくこそ　弥陀のみやげに
明意（辞世の句）

その後、太子殿の再建事業は弟子や門徒に託され、明治12（1879）年に無事成就します。明治25（1892）年の上人二十回忌に当たっては、四天王寺で念仏修行に励まれた庵を「指月閣白蓮庵」として整備し、そこに上人等身の木像を安置して、一山を挙げてその遺徳を称えました。

白蓮庵

大人のための文章教室
ライター・編集者 松本正行

言葉をつなぐ「の」は使いやすいけれど…

小学生の息子の担任の鞄は鮮やかな赤でよく目立つ。

「同じ表現を繰り返さない」は文を書く際のコツのひとつです。繰り返さないことでキリっと引き締まり、リズムもよくなります。この繰り返しでとくに注意したいのが「の」の連続。例文だと3回続けて出てきます。「の」を使う言い回しは便利でついつい頼りがちですが、3回では稚拙な感じがぬぐえません。

◀

小学生の息子の担任が持つ鞄は鮮やかな赤でよく目立つ。

「の」の連続は2回まで。連続3回以上は避けるようにしましょう。3回になりそうなときは省略、あるいは他の言葉への置き換えを考えてください。たとえば、場を示す場合は「～に」や「～にある」に。時を示す場合は「～における」にするといった具合です。修正文のように動詞の使用も検討してみましょう。

「の」以外にも「が」や「を」も連続を避けるべき言葉。「が」と「を」は一文が長くなる原因になります。「の」と同様、これらも連続3回以上にならないよう注意してください。

※本連載は「うえまち号外」掲載分以外も、Webでご覧いただけます（「ノート うえまち」で検索）。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。

油祖像
撮影:663highland

相羽秋夫の らくごハローワーク

第6職 『油屋猫』噂一つで店揺らぐ

世間話に時を過ごすことを「油を売る」と言うが、江戸期の髪油を売る商人が客に効能をじっくり説明して商売したことを語源とする。

「油を差す」はおだてること、「油を注ぐ」は人を誉め囃すこと、「油を絞る」はきびしく叱ること、など油に関する慣用句は多い。それだけ、我々の生活に油が深く入り込んでいたのだろう。そこで、油屋にまつわる小咄『油屋猫』をご紹介する。

◇

繁昌している油屋に、化け猫が出るという噂が立って、客足が跡絶（とだ）えた。店主が捕まえてやろうと、寝ずの番をしている所へ当の猫が現れる。主人が「憎っきやつ！」と用意していた石を投げつけると、ひょいと体をかわした猫「危やのう（油屋の）」。

◇

アブラには4種の漢字を当てる。液体の時は油、固体になると脂、肉のアブラの場合は膏、ねっとりとした脂肪は膩というむつかしい字を使う。

油は、昔は植物油が主だった。胡麻（ごま）や荏（え）胡麻、大豆、菜種、椿、綿などから採取した。店を構える前は、全国を行商して売りさばく商人が「油座」という組合を作って、仕事を円滑にした。

その座は各地に作られたが、中で最も大きい組織が、山城国（現京都府）大山崎にあった。商人の出立ちは、藍の木綿に渋茶の胸立てを付け、油桶を天秤棒で担いで歩いた。

この山城の油売りから美濃（現岐阜県）の領主になったのが、蝮の道三（まむしのどうさん）と呼ばれた斎藤道三である。道三が奪った美濃は土岐（とき）氏が治めていた。この土岐氏につながる明智光秀が、織田信長を制した直後に、豊臣秀吉と戦って敗れたのが、山崎の天王山だ。歴史の縁を覚える。

江戸期、油屋から呉服問屋に転じたのであろう京の室町通りに店を構えた油屋太兵衛が考えた「油屋絹」と呼ばれる絹物が、人気を博したという。と油を扱っただけに、筆の滑りがいつもより良かった。

相羽秋夫の らくごハローワーク

第5職 芸人を潰す妙手の『欠伸指南』

有名大学に入学するにも、スポーツ界のメダリストになるにも、幼少期から〝指南所〟に多額のお金を注ぎ込まなければならないのは、古今東西変わらぬ摂理だ。

落語の中には、欠伸（あくび）の仕方を教える所まで登場する。『欠伸指南』と呼ばれる上方落語である。指南とは方向を指さして導くことから「教え導くこと」「教え授けること」の意に使う。そこから、今日風には塾、稽古場、教室、レッスン所とでも言おうか。

◇

三味線・浄瑠璃・書道など何をやっても長続きしない男が、新しく出来た「御欠伸指南所」で欠伸を教えてもらうことになる。1人では恥ずかしいので、嫌がる友人を誘い、側で見ているだけでよい、との約束で連れていく。さっそく指南が始まり、四季折々の欠伸、もらい風呂をする時の欠伸、将棋を指す折の欠伸など、様々な態様の欠伸を習う。

傍らで見ていた友人、「教える方も、教わる方も、何やってるねん」と思わず欠伸をする。それを目ざとく見つけた先生、「お連れさんの生理現象じゃ。側で見ているだけで覚えなさった」。

◇

欠伸は、眠い時、退屈な時、疲労した時などに、血液中の酸素が不足したため、それを補充しようとして起きる吸い込み作業である。ちなみに、噯気（おくび）は胃の中に溜まったガスが口外に出ることで、「げっぷ」とも呼ぶ。

ところで、あなたの恋をしている相手が、次の生理現象を催した場合、どれを許し、どれで恋が冷めてしまうでしょうか。一度考えてみて下さい。

屁（へ、ひ）・噯気（おくび・吃逆（しゃっくり）・嚏（くしゃみ）・咳（せき）・歯軋り（はぎしり）の7項目である。

「芸人は欠伸一つで瀕死する」の川柳通り、芸人に限らず物事を発する者にとって、受け手の欠伸は致命的になる。このコラム、欠伸なしで読めましたか？

画像提供:不老庵
https://furouan.com/

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

各種予約・お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06・6779・7222

住まいと暮らしの無料相談会

5月14日・6月11日（土）
各10時～12時

大事なことなのだけど、なかなか日常生活では相談できない住まいと暮らしの「困った！」はありませんか？「住まいと暮らしの無料相談会」は弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士などの当法人会員が専門知識を生かしご相談に応じます。電話もしくはHPよりお申し込みください。

主催：NPO法人まち・すまいづくり（市立社会福祉センター指定管理者）
電話：06・6779・7222
場所：大阪市立社会福祉センター（大阪市天王寺区東高津12・10）
後援：天王寺区役所

「うえまち」出版物〝歴博〟で販売中

まち・すまいづくり編集・出版の刊行物（左記）が、大阪歴史博物館ミュージアムショップで好評販売中です。

- 上町台地名所百景
- うえまち 上町台地を想い観る
- うえまち第二集 上町台地と大坂夏の陣
- 夕陽丘まち談義 「都市デザイン」の資源発掘
- うえまち 「大坂の陣」特選集 大坂の陣そのとき一心寺は

うえまち寄席

6月25日（土）14時開演

桂佐ん吉、桂ちょうばによる、上方落語発祥の地・上町台地にふさわしい、古典を中心とした落語会です。電話または電子チケット販売サイト「TIGET（チゲット）」からも予約可能です。

場所：一心寺南会所（天王寺区逢坂2・7）
入場料：2000円

第15回
夕陽丘うえまち写真コンテスト受賞作品

～北は大阪城から南は住吉大社まで～
緑豊かで、歴史と文化いっぱいの上町台地。
その風景や、そこに暮らす人々の姿を写真という一篇の「詩」にしていただく…。
写真を通じて、この地域の素晴らしさを再発見したい！
そんな想いの写真コンテストです。

主　　催：夕陽丘うえまち写真コンテスト事務局
応募総数：146名・332作品（一般272作品・学生60作品）
審　　査：江口保夫（フォトキョイ）、髙口恭行（一心寺 長老）
平田秀瑞（一心寺 執事）、清水ミサコ（ラメカカメラ堂）
田中一泉（日本写真映像専門学校）
髙口真吾（夕陽丘うえまち写真コンテスト事務局長）

審査員総評

審査委員長　江口保夫（フォトキョイ）　15年の間、1万点くらいでしょうか？たくさんの方々の素晴らしい作品を拝見させていただきました。最初は一心寺界隈の写真がほとんどでしたが、夕陽丘からうえまちへと撮影範囲が広がり、バラエティ豊かな写真が応募されています。その中、私たち審査員はどんどん目が肥えてきて、同じ傾向の写真を拝見しますと多少なりとも厳しい眼となります。2年続きのコロナ禍で、撮影回数や撮影場所などが制限され、苦労しながらの撮影で大変だったかとも思います。が、残念ながらドキッと目を引くような作品は少なかったように感じます。

また、残念なのは今回も人形フェス賞は応募点数が少なく、該当作品なしとなったことです。なにわ人形芝居フェスティバル開催日が4月の第一日曜日とコンテスト応募締め切りのすぐ後ということもあるかと思いますが、来年のなにわ人形芝居フェスティバルにはぜひとも大勢の方が参加され、たくさんの作品を応募していただければと思います。

改めて、来年も皆様のたくさんの素晴らしい作品のコンテスト応募をお待ちしております。

審査員　清水ミサコ（ラメカカメラ堂）　2021年度はコロナの影響で催しが少く、記録的な豪雪もなく、桜の命も短く、道行く人々は皆マスク姿という状況でありながら、これだけの多彩な作品を応募された方々に敬意を表します。

審査をしていて感じたことは、全体のレベルは年々上がっており、年齢を問わず写真のレタッチ技術の腕も相当高くなっているということです。それだけに受賞するためには完成度に加えて+αが必要になりますが、今回はその+αも多彩ではないかと思います。

その一方で、あと少しの工夫でもっと良くなる作品や、当コンテストでは選ぶことが難しいけれど素敵な作品もたくさんありました。今回は残念ながら受賞されずとも、応募された皆様全員が、これからも楽しみながら撮影を続けていかれることを願っております。また過去の受賞作品に類似したものも見受けられますので、撮影の前に過去作品にお目を通されることをおすすめします。

最後に、受賞された皆様方、誠におめでとうございます。

審査員　田中一泉（日本写真映像専門学校）　今年も魅力的な写真を拝見することができ、とても楽しかったです。学生さんの作品は未熟ながらエネルギーに満ち溢れ、これからが楽しみになりました。

「魅力的な写真はこうじゃないといけない」というルールはあってないようなものかもしれません。誰もが写真撮影を簡単にできる現代では、チャレンジすることはとても簡単で、平等にチャンスはあります。来年の審査の時にも様々な写真に出会えることを心待ちにしています。

最優秀作品賞・上町台地パンフ賞

「街を見守る通天閣」
上杉裕昭

この地域のシンボルタワー・通天閣は、いつも人々を見守っているようです。

江口保夫（フォトキョイ）以下江口　大阪市立美術館からの晩秋の夕景を優しく捉えられました。コロナ禍やウクライナ問題の中、柔らかい色彩にホッとさせられます。

清水ミサコ（ラメカカメラ堂）以下清水　この場所から撮影した作品は多いですが、この作品は撮影時期やタイミングが優れています。特に色彩がカラフルでありながら、それが下品にならず上手くまとめ上げていると思います。ぜひ別の場所でも三脚を据えてじっくりと撮影していただきたいです。

田中一泉（日本写真映像専門学校）以下田中　長時間露光による人のブレは時間を、豊かな色彩からは通天閣の変化する照明が街の1部であることを感じさせます。また作者が三重県から来られたことがよりこの写真に意味をもたせています。

一心寺賞

「改心（かいしん）」
小林博

このさいだから心を改める事に。

江口　一心寺で私の大好きな瓦の石畳をご自分の履きなれた靴と一緒にしっかりとまとめられました。タイトル・コメントにクスっとしました。私と同年齢…!?　うれしいですね。

七坂賞

「坂の上ダンス」
藪直隆

坂の上の見通しのよい場所で踊ってもらいました。

清水　作品応募のためのダンスですね。あえて後ろ姿であることが、想像に奥行きを出してくれます。地味ですが落ち葉の積もり具合でリアルさや侘しさを醸し出しているのかも。セピアっぽい色調がはまっていますが、工夫次第でもっと飛ぶような感じもします。

上町台地パンフ賞

「泡雲（あわくもり）」
川根一雄

突然の風で浮かべ雲一輪が上げたって、石段で散歩たちを見てシャッター切りました。

清水　一見、エジプトのピラミッド遺跡かと思うような不思議さが持ち味だと思います。題名の通り、雲も迫力がありますが、人物の配置とそれぞれの動作が本当によい！ この一瞬はこだけのものですね。プリントを若干明るくしてもいいかもしれません。

「秋の大阪城寸景」
山田渥大

コロナ禍で遠くへ撮影に行けなくなり、日々、よく大阪城に行きます。行くと何か新しい風景に出会い楽しみです。

江口　晩秋の大阪城のお濠に珍しく屋形船でしょうか？ 足繁く通わないと出会えない光景を構図よくしっかりとまとめられています。

「ソウル・ロマン・酒場」
大東利人

昭和の匂いの残る鶴橋に行って来ました。コロナ禍・昼間にもかかわらず、路地の一角の酒場は元気でした。その中で、ひときわ目立つネオンが！ 思わずシャッターを切りました。

田中　コロナの影響下での居酒屋のネオンは、希望の光のような意味があります。明かりが灯ることで店が開いていることを確認することができ、よく通った方々からすると誰かと楽しい時間を過ごした記憶がよみがえります。

「浮遊人の お気に入りの桜並木」
船井友彦

「活き活きと」
望月真梨子

「初めての墓参り」
平尾治雄

特別賞

「雨雲」
小林謙一

「SHOUT!!」
大久保玲花

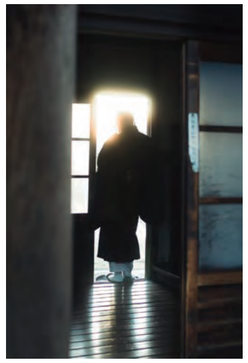
「秋の贈り物」
加藤秀行

青春賞

「ハンドパワー!!」
川本宙

ハッ！ という掛け声と共に、両手の間に美しい球体が現れました。奇跡のような瞬間を撮影することができました。

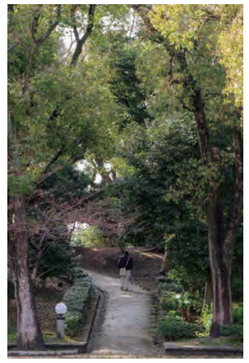
田中　単純明快で素晴らしいと思います。撮影者と被写体が楽しむことがまず写真には大切と再確認させてくれた作品です。アドバイスを1点すると、次は明るく撮影しましょう。楽しい雰囲気がより演出できます。



「恩光」
新大翔

ふらっと散歩していたら突然、目の前に眩い光に包まれたお坊さんが現れた。

清水　おそらく一瞬の出来事だったと思いますが、よく撮れましたね。これを目にした時の感情が、構図やコントラストを通して伝わってきます。お坊さんも煩悩を背負った人間の一人ですが、その向こうには人を越えた存在が感じられるような…。



「静閑な小道」
渡邊真帆

木漏れ日がちらちらとさす、小道を、ゆっくりと、散歩している様子が素敵で切り取りました。

江口　茶臼山でしょうか？ 小道をゆっくりと歩く男性の後ろ姿をさり気なく撮影。こんもりと茂った木々が上手くフレーミングされ、落ち着いた作品になっています。

※作品のコメントは応募者の意図を尊重し、原文通り掲載しております。

第16回夕陽丘うえまち写真コンテスト
作品募集中～ 2023.3.31
住吉大社～一心寺・下寺町～大阪城までの上町台地の風景や、そこで暮らす人々をカメラに収めてください。募集要項はホームページにて。応募用紙のダウンロードなども可能です。
夕陽丘うえまち写真コンテスト

スマホ賞　作品募集
大阪城～下寺町～住吉大社の風景や人、出来事をスマホで撮影し、メールで送ってください！ 応募方法など詳細はホームページにて。
夕陽丘　スマホ賞

公式HP

【問い合わせ】
夕陽丘うえまち写真コンテスト事務局
〒543-0062
大阪市天王寺区逢阪2-6-13 B1F
一心寺シアター倶楽内
TEL:06-6774-2877　FAX:06-6774-4003
http://isshinji.net/pic/　kura@isshinji.net